

| | | | |
|----------|--|-----|--|
| 科目 | 歴史 I (History I) | | |
| 担当教員 | 深見 貴成 教授 | | |
| 対象学年等 | システム情報工学科・1年・後期・必修・1単位【講義】(履修単位) | | |
| 学習・教育目標 | 教育目標4 | | |
| 授業の概要と方針 | 現代社会に生きる人間にとって、日本近現代史の理解は必須である。なぜならば、第一に歴史を学ぶことによって過去の教訓を得ることができ、第二に歴史から現代社会の課題を考えることができるからである。よって、本授業では、「国民国家」(住民を国民として統合していく国家)としての日本の歴史について、特に国際政治の中でどのように展開していったかを学んでいく。 | | |
| | 到達目標 | 達成度 | 到達目標別の評価方法と基準 |
| 1 | 近世から近代、近代日本の歴史的展開について、日本社会と国際政治の関連から理解することができる。 | | 近世から近代、近代日本の歴史的展開について、日本社会と国際政治の関連から理解することができるか、中間試験および定期試験によって評価する。 |
| 2 | 歴史的に物事を考え、説明し、現代社会を考えることができる。 | | 歴史的に物事を考え、説明し、現代社会を考えることができるか、中間試験および定期試験によって評価する。 |
| 3 | 歴史資料に基づいて、歴史的な事象を理解し、説明することができる。 | | 歴史資料に基づいて、歴史的な事象を理解し、説明することができるか、中間試験および定期試験、提出物によって評価する。 |
| 4 | 歴史資料の大切さ、重要性を理解することができる。 | | 歴史資料の大切さ、重要性を理解することができるか、歴史資料に関する提出物の内容によって評価する。 |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |
| 8 | | | |
| 9 | | | |
| 10 | | | |
| 総合評価 | 成績は、試験70% レポート・提出物30% として評価する。備考到達目標1・2・3は中間および定期試験4回の平均点で評価する。また到達目標3・4はレポート・提出物で評価する。これらを総合して100点満点で60点以上を合格とする。再試験を実施することがある。 | | |
| テキスト | 佐藤信ほか『詳説日本史』山川出版社 外園豊基『最新日本史図表』第一学習社 | | |
| 参考書 | 全国歴史教育研究協議会編『日本史用語集 改訂版』(山川出版社) | | |
| 関連科目 | 歴史(2年)・日本史学A・日本史学B・環境と人類の歴史・社会と文化の歴史(以上5年) | | |
| 履修上の注意事項 | 教科書をよく読むことを期待する。 | | |

授業計画(歴史Ⅰ)

| | テーマ | 内容(目標・準備など) |
|----|-----------------------|--|
| 1 | 導入—国際政治と日本 | 古代から近世までの時代区分と日本の歴史について概観し、日本が世界の中でどのように歩んできたのかを確認する。 |
| 2 | 近世後期の日本社会と世界(1) | 幕末の社会状況を学び、幕藩体制が動揺し崩壊する過程を確認する。またペリー来航前後の国際社会の状況と日本との関わりを確認する。 |
| 3 | 近世後期の日本社会と世界(2) | 第2週に同じ。 |
| 4 | 明治維新とその意義(1) | 主に明治初期から明治10年代の日本社会について、近世とのつながりを特に確認しながら、その特徴について学ぶ。 |
| 5 | 明治維新とその意義(2) | 第4週に同じ |
| 6 | 自由民権運動の時代(1) | 自由民権運動について、主要人物とともにその展開を学習する。また、地域社会において民権運動がどのように展開したのかを確認し、帝国議会開設への展開を知る。 |
| 7 | 自由民権運動の時代(2) | 第6週に同じ。 |
| 8 | 中間試験 | 第1週から第7週までの内容について試験を行う。 |
| 9 | 明治憲法の制定とその世界史的位置づけ(1) | 大日本帝国憲法(明治憲法)の成立と帝国議会開設の日本社会における意義を学ぶ。また、地方自治制度制定によって現在へと続く「地域社会」が成立したことを学習する。 |
| 10 | 明治憲法の制定とその世界史的位置づけ(2) | 第9週に同じ。 |
| 11 | 日清戦争と日露戦争の展開(1) | 日清・日露戦争の過程を国際政治の状況の中から確認し、日本社会の変化を知る。また日本の植民地支配についてその特徴を学ぶ。 |
| 12 | 日清戦争と日露戦争の展開(2) | 第11週に同じ。 |
| 13 | 大正デモクラシーの世界史的位置づけ(1) | 大正期のデモクラシー状況について学ぶ。デモクラシーの意義を確認し、それが世界とどのように関連しているかを学習する。 |
| 14 | 大正デモクラシーの世界史的位置づけ(2) | 第13週に同じ。 |
| 15 | 近世後期から大正期までの日本を振り返る | これまで学習した時代の流れを理解し、日本が明治維新によってどう変化したのかを考える。 |
| 16 | | |
| 17 | | |
| 18 | | |
| 19 | | |
| 20 | | |
| 21 | | |
| 22 | | |
| 23 | | |
| 24 | | |
| 25 | | |
| 26 | | |
| 27 | | |
| 28 | | |
| 29 | | |
| 30 | | |
| 備考 | 後期中間試験および後期定期試験を実施する。 | |